



芝生で地域課題解決！ 「しばふる」で街も人も笑顔に！

チュウブYAJINスタジアムの施設管理で培った芝生ノウハウをもとに複数の協力者と立ち上げた芝生生産プロジェクト。「地域社会の一員としてお役に立つ」という想いから地域課題である米子市の遊休農地（耕作放棄地）を借りて芝生を生産。生産はスタッフだけでなく、企業協力や障害者による軽作業協働など地域を主語にした多面的なプロジェクトとなっています。生産した芝生は県内外問わずの教育施設や多目的広場、社屋等に販売。昨年は鳥取県トライアスロン協会や地元ケーブルテレビ局と一緒に芝生化クラウドファンディングを立上げ1,300万円を超え達成（山陰地方のギネス）。クラブの地域価値の向上、収益強化につながっています。

- 活動場所** : 生産場所：米子市弓浜地区、境港市つばさ保育園
- 取組テーマ** : 持続可能な地域づくり
- 協働者** : 企業／NPO／行政
- 協働者名** : 本田技研株式会社（HONDA）、三光株式会社、ミライズ、チュウブ緑地、有限会社岡田商店、株式会社まるごう、鳥取県トライアスロン協会

活動で工夫した点

・芝生生産における工夫点：本田技研工業（HONDA）と提携し、芝生管理の省力化や肥料の効果測定などの実証実験を行った。また低農薬栽培にチャレンジし、環境や身体にやさしい芝生生産も開始。
・芝生化における工夫点：芝生化したいが予算の捻出が難しい団体へ、クラブスポンサーのネットワークを活用し、地域企業がCSRの一環として芝生を購入し団体に寄贈するというモデルをつくり、芝生化を実現した。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

芝生生産未開の地であったため、周りの農家からの理解や協力が得にくく、また農業者としての経験がないJリーグクラブに芝生生産ができるのかといった批判的な対応や時には心無い声が多くあった。また実際に取り組むと未知の部分が多く次々と課題も出てきたが、生産スタッフの情熱、姿勢、プロジェクトパートナーの助言や協力、芝生化の実績づくり、広報などを通し徐々に理解を深めていった。

クラブや地域の活動後の変化

初出荷で幼稚園を芝生化した際に園児たちが笑顔いっぱい走り回る様子が地元メディアに取り上げられ大きな反響があり地域からも温かい言葉をかけられることが増えた。また全国紙や雑誌、TV番組で数多く取り上げられるようになると地元をはじめスタッフの自信にもつながり、プロジェクトの成功が地域課題（耕作放棄地）解決につながることで、地元の方々にも新たな芝生の産地が誕生したことを喜んでいただくことができた。



協働者の声

芝生を寄贈した地元企業（スーパー）の声：
買い物に来るお客様に「本当にいいことされましたね！」というお声をいただくようになり、活動に参加したことを喜ぶとともに芝生の持つちからにびっくりしました。

参加者の声

芝生化した保育園の園長先生から「園庭を芝生化してから、子どもたちが裸足で飛び出すことが多くなり、土の園庭と比べて芝生だと転んでも痛くないので思いっきり身体を動かす姿を目にすることが多くなり保護者からも良い評判を耳にする機会がふえた。また芝刈りロボットを導入することで芝の管理も手がかからず想像以上で驚いている。」との感想をいただいた。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

Jリーグクラブだからこそそのノウハウや信頼を顕在化している地域課題とリンクすることで、スポーツ以外の価値を提供できている実感と実績。シャレン！は地方クラブの生き方のひとつであり大切な活動だと思います。

補足

耕作放棄地は、人口減少、少子高齢化に伴う課題の一つとして選挙公約になるなど地域の解決すべき課題の柱であり、しばふるプロジェクト発足時に村井チェアマンや米子市長など行政や地域の200名を超える参会者のなか、地域課題を考えるシンポジウムを開催し機運を醸成することができました。その後、新規耕作地を探す際の相談や、農業参入に関わる補助金の紹介など行政との連携も活動の大きな推進力となっています。